

村長の日記

平成 30 年 1 月 4 日 (木)

今年は 4 日から始まる。

村の林野関係職員は今年の正月は無し。昨年末林野庁の査察で「まだまだ復旧すべきところがある。1 月 10 日までに今一度復旧すべきところを再調査してください、国費で出来るところは最大限援助します。」査察官の言葉で、土木関係者全員が現地調査から申請書類作成まで必死の作業を続けていた。財政的に厳しい村にとって、再調査までこぎつけて、更に期限内に申請書を仕上げるのが至上命令。非常に厳しい仕事を仕上げていただいた二十数人の林業、土木関係の諸君には、感謝以外ない。

皆さんのおかげで被害の大きい うすい谷林道の復旧にめどがついた。

5 日 (金) 村表彰式と新年互礼会。ティグレフォーラム新年の集い (ニューオータニ大阪)

6~7 日 村出初式、富田林消防出初式

8 日 (月) 成人の日

10 日 (水) 臨時議会

- 一般会計補正予算 7620 万円増額
- 庁舎用地測量費他 580 万円
- 商工費、地方創生加速化交付金 700 万円
- 災害復旧費 6150 万円 (農地災害普及費 2130 万円、林道災害復旧工事費 3830 万円)

庁舎建設特別委員会

29 年 2 月住民説明会を経て「現庁舎の位置で建て替え」となり、今回役所西側の明示結了、関係地権者と立会いの上用地を確定、建設に取り掛かる

15 日 (月) 公明党新春年賀会 (ニューオータニ大阪)

16 日~18 日 台湾セールスコール (台北)

16 日 (火) 台湾外交部(外務省) 蔡部長、李秘書課長(女性)、劉秘書、3 人同席で歓迎会。

村長の日記

- 17日（水） 松原市姉妹都市、台北文山區の皆さんと昼食会。
16時よりセールススクール、台湾のツアー会社40社を招いて大阪の南河内をPR。
多くの皆さんが思っている大阪の顔はキタやミナミだが、南河内に大きな興味を寄せ、必ず客を送ると約束してくれた。
日台友好協会へ表敬訪問、帰国する、
- 21日（日） 貝塚市長選。無投票で現職当選。
- 22日（月） 13：30～ 大阪府市町村長合同会議（シティプラザ） 15：30～ 防災危機管理TOPセミナー（シティプラザ）
- 23日（火） 富田林商工会賀詞交換会（市民会館）
- 24日（水） B&G全国サミット（品川、笹川記念会館） 18：00～ 全国道路交歓会（赤阪）
- 25日（木） 10：15～ 全国町村会、共済会幹事会（全国町村会館） 13：00～ 全国町村会理事会 15：00～ 全国町村長会
- 26日（金） 10：00～ 国土交通省 森技官講演（UR森ノ宮） 13：00～ 大阪水道企業団首長会（シティプラザ）
- 29日（月） 13：30～ 人権政策懇談会（太子町役場） 14：00～ 後期高齢者医療議会（プリムローズ大阪）
- 30日（火） 14：00～ 大阪南環境事業協会理事者会、
- 31日（水） 13：30～ 大阪府交通対策協議会（プリムローズ2F） 13：40～ ANAで高知へ
- 2月1日～2日 全国町村会 経済農林委員会 高知研修 14：55 ANAで帰阪
- 4日（日） 岸和田市長選挙 投開票
- 6日（火） 大阪商工表彰式（中之島公会堂）
- 7日（水） 大阪府市町村振興協会TOPセミナー 18：00～ 町村長会懇親会
- 8日（木） 14：00 大阪府後期高齢者医療2月定例会（プリムローズ）
- 9日（金） 大阪府都市計画審議会（プリムローズ）
- 12日（月） 建国記念日
19：00～ 河南町、武田町長激励会

村長の日記

- 13日(火) 9:15 村幹部会 10:00~12:00 大阪春秋取材 14:00 国道309期成会総会
14日(水) 大阪府町村長会 理事会
15日(木) 南河内環境施設組合理事会 (第1清掃工場)
16日(金) 12:00~14:00 内外情勢調査会 18:30 千早赤阪村OB会 (たこ吉)
17日(土) 13:00 母子 寡婦大会 (エル大阪)
21日(水) 13:30 大阪府町村長会定期総会
25日(日) 社協カラオケ会 “東京の花売り娘” を歌う
2月26日(月)

近畿府県町村会正副会長交流会 (琵琶湖ホテル)

当日の講演会：近江商人資料館館長の話

日野商人(近江商人)の話聞いた。

近江商人とは実は農民である。農閑期に日野地方の間屋に属し、昔から有名であった日野椀、日野医薬を全国的に行商した。

主に商人は関東平野農村部、中山道から分岐する地方道沿いの農産村中心で自分の商いをするエリア(縄張り)を決め、なじみ客に通い詰める“信用商い”で業績を伸ばしていった。

また、商人組合を結成し(日野大当番仲間)、定宿を指定して商い物流の拠点として利用し、最終的に為替機能を持たせて商いに専念できる体制を作っていた。収益の蓄積が出来ると行商時代の商いの場に出店。出店の中心は関東平野の地方都市や農村部、群馬、栃木、埼玉で、400店舗以上を数える。

初めは、酒、醤油、味噌、酢、など醸造加工の工場経営からスタート。次いで自家生産品プラス仕入雑貨も販売(商店経営)。更に自家製品、仲間製品の卸、仕入雑貨の卸を行う問屋業も併営、資金を利用して質屋、金貸し業も併営する。

出店は生産、販売、仕入れ、仲買、卸、金融、行商、の拠点となった。

日野商人の商法

商品の生産販売に問屋制を取り、椀、薬問屋が職人行商人を配下に、生産販売。椀問屋は原料の安定確保先として中国山地に下請け産業を育成、市場を農山村の庶民に特定し行商。薬問屋は特約販売網を組織した。

村長の日記

出店商いの独創性

各出店の規模は消費市場の大きさに合わせ小規模とし、本店を中心として支店、枝店、多店舗経営が特徴で、現在のチェーン店の原型。「1里四方釜飯食うところに店を出せ」の言い伝えがある。

乗合商い(合資会社、有限責任)での起業が多かった。

- ・ 多店舗で各店の名義を別にする、独立経営体化と負債取立て対策。
- ・ 出店間を活用して商品回しを採用。
- ・ 合理的な会計管理(複式簿記)を採用。
- ・ 家憲、家訓、店則の採用、現在にも通用する経営理念、商業道徳。

商人組合「日野第番頭仲間」を組織、江戸期の一般的な商人仲間(株仲間)ではない。利益独占の組織で無く、ネットワークで仲間を支援する組織。

物流組織の構築

東北~大阪間の全街道、全宿場に定宿組織を作り、商いと物流の拠点とした。仲間独自の定期飛脚「京飛脚・伊勢飛脚」を組織するとともに「伊勢湾船積問屋・琵琶湖船積問屋」との契約・連携により、スムーズな物流網を構築した。

庁舎建設特別委員会

新庁舎建設への今後の方針とスケジュールを議会へ説明した。

現庁舎一帯の敷地は境界明示が無く、公図と現況に大きな差異があり、敷地問題解決に長期間要することが判明した。

現庁舎は耐震調査により補強が不可能であり、防災拠点として新庁舎を建設することが急務である。専門家の指摘により現庁舎敷地で着工出来る可能性があり、現庁舎の敷地に建設する。

建設費を安く抑える必要から、現庁舎を残した状態で庁舎前の広場に新庁舎を建設し、早期着手を目指すとともに完成後現庁舎を解体することで、行政運営への影響を最小に抑える。

法的には一定規模の開発を行う場合(造成工事、区画変更)は開発許可が必要で区画明示が必要となるが、開発行為に当たらない範囲で事業実施を行う。つまり現庁舎の駐車場・消防車の駐車場で新庁舎を建設する。

村長の日記

- ・ この方法で事業着工をすることにより、建設着工が早くなる。
- ・ 土地利用計画上制限を受け、車両進入路、新庁舎の建設面積が限られるが、コンパクトで必要最小限の庁舎を建設すればよい。
- ・ 現在のプレハブ、別館に入居する部局は撤去することにより、新庁舎供用開始までは本館などへ仮移転する。

庁舎建設委員会での意見

1. 土地協議をしてからでいいのではないか？
2. 教育委員会をどこにするか？
3. となりの地権者と十分話をすべきだ。

などの意見を頂いた。

村としては早急に、出来るだけ周囲に迷惑を掛けないように工事を進めて行く。

3月1日（木）

昨日、国の予算が衆議院を通過し年度内成立となった。総額98兆円の大型予算。

村議会では平成30年度の予算を議会に提案した。

一般会計35億2590万円。前年度予算31億3510万円と比較して、3億9080万円(12.5%増)となった。

村は人口流出と少子高齢化により、自主財源の柱である村税は4億8430万円。年々減少傾向が止まらず、一般会計の13.7%にすぎない。

この状況下でも財政規律を堅持し、過疎からの脱却に向けた施策を計画的・効率的に行い、必要な事業に重点配分する予算とした。

ポイント

1. 将来を見据えた予算
各所属長のマネージメントにより、村の10年先~20年先「過疎からの脱却」に向けた優先度や効果の高い事業への取り組み。
2. スクラップ&ビルドの実施
少ない人員で最大の効果を得るよう、経常的・臨時的経費の区別なく取捨選択を実施。
3. 徹底した予算管理
不用額の発生防止に向け、見積もりベースではなく実行・実施ベースの予算を徹底。

村長の日記

平成 30 年度予算（10 万円台で四捨五入）

一般会計 35 億 2590 万円

特別会計

国民健康保険 9 億 2370 万円

介護保険 6 億 7170 万円

後期高齢者医療 1 億 1260 万円

下水道 2 億 4020 万円

金剛山観光事業 7080 万円

合計 55 億 4490 万円

*一般会計予算の説明

歳入

自主財源 11 億 3270 万円 32.1%

村税 4 億 8300 万円 13.7%

諸収入 5110 万円 1.4%

繰入金 4 億 5520 万円 12.9%

使用料&手数料 2070 万円 0.6%

その他 1 億 2270 万円 3.5%

依存財源 23 億 9310 万円 67.9%

地方交付税 22 億 2000 万円 34.6%

村債 6 億 1090 万円 17.3%

府支出金 2 億 2570 万円 6.4%

国支出金 1 億 7650 万円 5.0%

その他 1 億 6000 万円 4.6%

村長の日記

村税の状況	4億 8300万円
村民税	2億 3340万円（個人：2億 3340万円 法人：2990万円）
固定資産税	2億 3070万円
軽自動車税	1600万円
たばこ税	300万円

平成 30 年度主な新規事業

ESCO 事業 2億 4000万円

大幅な光熱費削減に向け、国の補助により公共施設の空調機器省エネ化と照明機器の LED 化を実施。目標：現状より 30%以上の経費削減。（くすのきホール、保健センター、B&G 海洋センター、郷土資料館、いきいきサロンくすのき）

簡易郵便局開設 590万円

役所内に簡易郵便局開設(10月予定)

全国瞬間警報システム受信機更新事業 3200万円

警報を確実に受信するため機器更新。

千早赤阪プロモーション 1010万円

村のオリジナルグッズ作成、中ノ島図書館での魅力発信イベント(5月)

企業誘致事業 1億 5500万円

新規事業の立地、既存企業の規模拡大なぞ企業進出に必要な整備費用の助成。

村道整備事業 8130万円

村道整備計画に基づく村道維持工事、生活道整備の助成、府県間道路事業化構想の調査研究助成。

3月議会の主な案件

- ・ 公共施設等整備基金条例

庁舎の建て替え。公共施設の老朽化による大規模改修資金需要に備え、新たな基金を積み立てる。

村長の日記

- ・ **B&G 海洋センター条例改正**
アリーナおよびトレーニングルームの個人使用、およびプールの使用では、同伴者及び引率者の使用料は、使用者と同額を徴収する。
- ・ 介護保険条例の改正
平成 30 年度~平成 32 年度、3 年間の基準保険料を現行年額 74,780 円から、年額 69,730 円とする。
- ・ 河南・太子・千早赤阪 介護保険認定審査会共同設置規約変更。
介護保険認定審査会共同設置執務場所を河南町に設置する。(順番は、河南・太子、千早赤阪の順番で 2 年毎事務局持ち回り)

平成 29 年度村一般会計補正予算

補正額 3 億 8 8 0 0 万円、歳入歳出総額 3 9 億 1 9 1 0 万円とする。

主な歳出

- * 増額、総務費 5 億 8 1 3 0 万円 (5 億 0 0 0 0 円、公共施設等整備基金積立金)
- * 減額、土木費 3 1 2 0 万円 他
- ・ 国民健康保険特別会計
補正額 4 2 3 0 万円 歳入歳出総額 1 1 億 8 0 0 万円
- ・ 介護保険特別会計
補正額 減額 1 億 8 6 0 0 万円 歳入歳出総額 6 億 6 9 8 0 万円
- ・ 後期高齢者医療特別会計
補正額 1 3 0 万円 歳入歳出総額 1 億 8 4 0 万円
- ・ 国民健康保険条例改正
 1. 国民健康保険料賦課限度額 5 4 万円から 5 8 万円に引き上げる。
 2. 低所得者の保険料軽減。
 3. 市町村標準保険料導入。
6 年の激減緩和措置期間を設け保険料の急激な上昇を防ぐ。

村長の日記

一般質問

井上議員

学校での心肺蘇生教育の普及推進等について

突然の心停止から命を救うためには、心肺蘇生・AED の知識と技能を体系的に普及する必要がある、学校での心肺蘇生教育はその柱となる。本村の小中学校における児童生徒への心配蘇生教育の現状と今後の方向性、学校における AED の設置状況、教職員への AED 講習の実施状況など具台的な取り組みも伺う。

設備投資に係る新たな固定資産税特例について

今回、国が行う中小企業の支援措置において「ものづくり・サービス補助金」の運用をするにあたり、優先採択において、

1. 事業所所在の自治体が固定資産税の特例率をゼロとする意向を表明していること。
2. 申請書類の中で事業者が計画策定の意思を表明していること。（その計画が市町村計画に適合することがみこまれること。）

が加味される。村内にも補助金を活用したい企業もおられることから、ぜひ本村においても計画策定・特例率等の実施を願いたい。考えを伺う。

山形議員

認定こども園の開園について

2月号の広報で設立候補地であった村立テニスコートが、断念せざるを得ない記事があった。そこで、こども園の開園へ向けての候補地選定が現在の所どのように進めているのか伺う。

藤浦議員

庁舎建設計画の経過について

平成 25 年 11 月に始まった庁舎建設の検討結果を踏まえて、平成 27 年 3 月に「基本計画」が策定された。その位置は、くすのきホールを建て替え、くすのきホール周辺とし、事業費約 10 億円とされた。そして、同年 10 月には基本設計が開始された。しかし平成 28 年 5 月に

村長の日記

事業費約 29 億円になるということになり、住民説明会（アンケート）の意見等を受けて、くすのきホール案は凍結された。事業費が大きくなった理由は、アクセス道路の整備、既存施設のやりかえ、排水施設の新設等であった。これらは当初からあるいは事前調査でわかることであった。この結果、これまでの事務費と基本設計委託料 1,600 万円は成果のない経費として税金が無駄に消えた。平成 28 年 10 月、新たに建設予定事案が示され、平成 29 年 3 月に現庁舎の建て替えが決定された。こうした中で、くすのきホール案が無くなったことについて

1. 庁舎建設は一大プロジェクトにも関わらず、専門家がいまま職員の中で取り組んだことは、組織体制が不十分であったことなどが考えられる。
2. 早い完成を目指すあまり、基本計画・設計の課程において、条件の整理・検討が十分に行われなかったこと。
3. 財政バランスを考慮したとは言い難い状況で進められたように見え、これらの責任は村長自ら議会と相談すべき事項であり、また議会はそのチェック機能を十分発揮していればこうした事態を回避できた可能性があったのではなど、住民の声があることなどで、議会にも責任は十分あるが、村として具体的にどう対応したのか伺いたい。

千福議員

松本村長の平成 30 年度村政所信をうけて

3 月議会初日に 30 年度村政運営方針をうけ一般質問をいたします。この質問は平政会での総括質問と重複する箇所もおもいます。村長は以前より、交流人口の増加や観光産業・文化振興を言い続けておられます。新年度においても南河内広域観光事業や大河ドラマの誘致、バスツアーの開催、外国人客の誘致などと多方面にわたってソフト面の取り組みを発表されました。受け入れの態勢は整っているでしょうか伺います。案内掲示、休憩所・食事処、お土産物、遊歩道、更に宿泊所等々何一つ整っているとは思いませんが。又、従前計上されておりました地域グルメ・お土産開発委託の実績をお伺いします。

地域おこし協力隊採用の効果と今後について

昨年、府下ではじめて地域おこし協力隊を採用され、2 名の隊員はそれぞれの分野において全力で取り組んでいただけると私は感じています。1 年が経過し、担当課においてどの様な評価をされているか、また、2 年目を迎えるにあたり、どの様な期待されているかお伺いいたします。

村長の日記

関口議員

村長 4 期目就任の村政運営について

村長の 4 期目就任の折り返し点にあたり、この間の村政運営のあり方について伺う。この間、役場フロアの変更や職員研修窓口案内など住民サービス向上の取り組みが進んでいる一方、庁舎建設に伴う仮移転やビジターセンターの設置、こども園、道の駅売店閉鎖など、進め方に問題なかったか。十分議論されたうえで判断し住民に広報したのか疑問だ。住民の間には決定されたものと受取り、「計画が遅れていること。二転三転している。」といった不信の声が出ている。村政の大きな問題については役場内・関係機関と十分協議したうえで広報すべきではないか。

子育て支援の充実を

人口減少と高齢化が進むなか、子育て支援のさらなる充実で若い世代が子育てしやすい環境を整える事が重要だ。その為に、

1. 学校給食の無償化を求める。
2. 学童保育の充実を求める。

村長は赤阪小への学童設置を公約している。千早小吹台小の学童は公設民営で小学校を対象にしており運営が成り立っている。実施にあたっては関係者の意見を良く聞き実情にあったものにし、将来的には村が責任をもって運営すべきだ。

田村議員

道の駅の今後は

昨年 1 2 月議会で道の駅について取り上げたばかりだが、3 月 25 日に売店一時閉鎖との事で大変驚いている。道の駅は金剛山と並び、本村の観光にとって目玉であると同時にシンボルでもある。本村から道の駅が失われることはあってはならず、万一失われることがあればそれは観光行政にとって明らかな後退となる。現状ではあくまで一時閉店のことで、将来的な再開を含意していると思われるが、道の駅の今後の具体的なスケジュールについて行政はどのように考えているのか。

抜本的なイノシシ対策を

現在多くの村民がイノシシの被害に苦しめられている。年々、イノシシの被害は増加しており、怨嗟を通り越してもはや諦めすら漂っているのが現状だ。本年の予算を見ると昨年と同じ計画となっているが、例年通りの対策によっては抜本的な解決に至らないことは今や誰が見

村長の日記

でも明らかではないか。行政はイノシシ対策についていったいどのように考えているのか。イノシシ被害を抜本的に解決する決意を聞かせてほしい。

3月22日（木）

昨日に続いて非常に寒い。南岸低気圧の影響で寒気が日本列島へ降りてきたからだ。21日は春分の日、この季節は日公差が大きく、朝晩は寒いが昼はかなり暖かいはずだが、寒いだけでなく雨。TVの予報では関東・北陸・中部は雪の予報、最近の天気予報は当たる。雨、あるいは悪天候の予報が出たときは、金剛山へ登る人が極端に少ない。春が寒いからではなく、年間を通じてその傾向は変わらない。皆さんには登山だけの金剛山しか念頭にない。ロープウェイもある、頂上近くに宿泊施設もあるが、一般人に対する訴求力が弱いと言うより、まるで無い。

最近のTVではグルメ番組が多い。地域の農産物を使った食事、肉、海産物、美男、美女、その他の人々がいかにも旨そうに食べる。村にも特別なグルメがほしい。役所の補助で出来たクッキー、ラスク、米プリンはかなり売り上げを伸ばしてきたが、まだまだパンチが弱い。千早へ行くとこれがある！と言われるものはないのか？

3月24日（土）

消防団へ 小型ポンプ搭載車配備式を行う

村には13地区あり、各地区へ小型ポンプ搭載車を配備してきた。軽四輪ベースの改造車だが、1台約500万円弱。村内各地域へ1度に配備するのは財政的に大変なので、毎年2台ずつ古い車と交換してきた。今回の小吹・中津原で村内全ての積載車を新車と交換することが出来た。初期消火に役立ってほしい。

3月26日（月）

14:00

309号線の第2期工事 オークワ→川野辺、完成記念式典

大阪府の都市整備部長、竹本代議士、鈴木府議、吉村府議、河南町長、私、両町村議長、土地提供者、309号線推進協議会会長、副会長

村長の日記

以下多数の人々参加で始まった。やっと村の入り口まで完成した。

桜の花が5分咲き、暖かく天気は良い、式典日和。平成12年の協議会設立から18年、やっと村の入り口まで完成。村内を通過して水越峠まではあと何年かかるのだろうか？ 推進協議会と共に早期完成に向かって頑張ろう。

昨年末、「309は中々出来ない、いつごろ出来るのか？」と何回か質問を受けた。「大阪府が3月末完成と言っている」と答えると、ほとんどの人が「無理やろう」。土木工事は始まると早い。

3月27日（火）

熊取町長の父君訃報

お通夜に参列。私も母の葬儀を経験したが、大変だ。

年度末のこともあり、町長の皆さんは多忙を極めている。お通夜に参列できない皆さんが多い。岬町長、市町村課長と参列。

会場に着くと2階へどうぞのアナウンス。人人人の列、大変だ。

3月28日（水）

12:00

熊取町で葬儀参列

14:00

大阪府医療審議会

平成36までの大阪府医療計画を審議する会議での、村の意見。

村は26年過疎指定を受けたが、過疎からの脱却をめざしている。住民が安心して地域内で生活を送るには、医療の確保が必要です。

村には村営の国保診療所が2つある（ドクターは1人）。民間診療所が1か所、歯科診療所が1カ所あるだけ。

住民の医療を確保するには、国保診療所の継続運営が必須です。過疎地域の医師不足は深刻で、昨年度過疎地で地域医療を運営している公益社団法人地域医療振興協会に、指定管理をお願いしました。

大阪府への願いは、府民全てが“いつでも”“どこでも”質の高い医療サービスが受けられるよう、市町村への医療支援対策を進めて頂

村長の日記

きたい。

村は今までの国保会計が黒字基調で、大阪府下最低の国保料金でした。この原因は医療機関の不足でした。30年度から国保は府が保険者となり、6年後には府下同一保険料となります。前提として同一医療水準が前提であり、当然です。村の医療に対し、府のバックアップをお願いします。